

千秀だより

横浜市立千秀小学校 令和2年(2020)11月30日

12月号

URL: www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/senshu/
学校教育目標『自分で考え 表現し 挑戦し続ける子』



実りの秋・実りの冬

校長 富田 操

先日、二日間にわたって「オープンスクール」をひらきました。横浜市の取り組みとしてのオープンスクールは、既に終了していますが、本校では、できるだけ普段の生活を見ていただく機会を設けようと考え、昨年度より、規模を縮小して実施を続けています。

この状況の中で、たくさんの保護者の方に参観していただきました。この場を借りて御礼申し上げます。また、アンケートへの回答もありがとうございました。どの回答も温かみにあふれ、教職員にエールを送っていただいているような言葉をたくさんいただきました。教職員の明日へのエネルギー源として励みにすると共に、今後の学校経営・学級経営の参考にしてまいります。

その中で、一つ気になる項目がありました。それは「あいさつ」の項目です。他の項目に比して、低い評価が多かったように思います。

あいさつは、社会生活にとって、大変重要な意味をもつものだと思います。もちろん、基礎的なしつけとしての「あいさつ」は各家庭で指導していただくことが前提だと思いますが、学校の担う大きな役割として「子どもに社会性を身につけさせる」ということがあると思います。その意味で、あいさつ指導は、学校で指導していくべき大切なものの一つだと思っています。

朝、校門であいさつを交わしている際は、しっかり挨拶をしていると感じますし、朝会等であいさつのお話をすると、翌日からすぐに改善されていることに驚かされる千秀小学校の子どもたちです。だからこそ、アンケートの結果を受けとめ、これから全校でのあいさつの指導をしっかり進めていかねば、と思いました。

秋も深まり、子どもたちの活動も活発になってきました。6年生は修学旅行に元気に行ってきました。このコロナ禍の中で、子どもたちも自分たちで意識し自制していたと思います。

就寝の状況も、いつもなら「もう少し静かに寝よう」という指導をするところですが、今年度の6年生は、その必要がほとんどありませんでした。

また、最後の昼食前に手洗いをした際も、全員の姿を見ていましたが、本当に丁寧で「いわゆる推奨される」ような手洗いの仕方を全員がしていたのが印象に残りました。

「ここまでなんとか修学旅行実施に向けてみんなで様々な努力をしてきた。最後は君たちが安全に気をつけて、それを完成させてほしい。」という先生たちの言葉も6年生に伝わっていたと思います。そして、それを素直に受け止めて行動に移そうとするところが、千秀小学校の子どもたちの見事なところだと、またしても実感しました。

「実りの秋」という言葉があります。今年度は、特に例年とは違う難しい状況です。しかし、だからこそ、子どもたちには少しでも実りのある時を過ごしてほしい、そう心から願っています。今年度は、2か月遅れて始まった学校ですから、実りの秋に「実りの冬」も追加してしまおうと思います。本来でしたら、始業して7か月。これから積み重ねてきたものが一気に開花していく時期でもあります。大事に大事に、子どもたちが花開いていく姿を支援してまいります。

ご家庭・地域でも、子どもたちに「実りの秋」と「実りの冬」が訪れるように、さらに子どもたちの姿を見守っていただき、そして温かく声をかけていただけると幸いです。

今月もよろしくお願いたします。